

[教育目標]
心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和3年5月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://mishima.fcs.ed.jp/> 三島中学校



GIGAスクール構想



コロナ禍で、加速したGIGA(ギガ)スクール構想。これは、令和元年十二月に文部科学省が令和時代のスタンダードとして打ち出した一人一台端末環境です。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICT(情報通信技術)の活用が日常のものとなっています。これからの時代によって、PC端末(パソコン)は、鉛筆やノートと並ぶ「mustアイテム」。Society 5.0の時代を生き抜くために、学校においては、各自自治体にはその環境整備が求められています。

この動きの最中、世界中を揺るがした新型コロナウイルスの感染拡大。

コロナ禍の陰と陽

ICT教育先進国と比べ、参集し対面しての授業が主流であった日本の学校教育は、外出の自粛によって機能不全に陥りつつある。その遅れが露呈しました。そこで国はGIGAスクール構想の予算を大幅に拡大し、当初の計画より二年前倒しで実施することになりました。

三島町では、早い対応で令和二年度内には環境が整い、校内における生徒一人一台端末環境が実現しました。

しかし、ここで頭を過るのは、スマホやタブレットを使って、音楽や動画を費やす子どもたちの姿です。さらにはSNSを利用しての犯罪に巻き込まれる姿です。

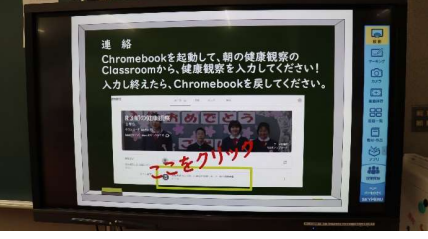
現代社会での問題が浮き彫りになっている中、同じ轍を踏むことは、学校教育には許されないと安易にこの環境を与えてしまおうのではなく、本来コンピュータのもつ利便性を知り、動画やゲーム、SNSだけに使うことの視野の狭さを認識させることは、これまでの考えを上書きするためにも必要なことと考えます。そのために、授業でというよりは、まずは実生活に関する部分から入ってみてはと思います。朝の健康観察に使ってみました。そんなこと、子どもたちの顔を確認しながら行うもののお叱りを受けそうです。

まずは朝の健康観察から

が、勿論、それは基本中の基本として行っております。この方法には、いくつかの利点があります。子どもたちは、朝登校したら自分のPCを開き、今の体の調子、今朝の体温、朝食摂取の状況、昨夜の就寝時刻、今朝の起床時刻などを質問に答える形で入力します。時間にして1〜2分程度でしょうか。この情報は、入力とともに集約され、一覧表となり、グラフ化されます。

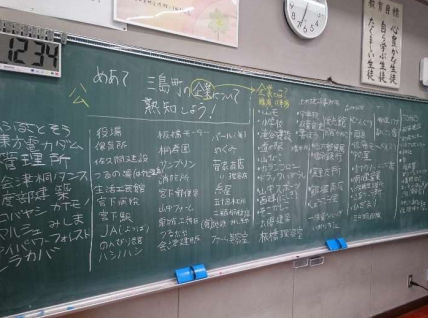
全校生徒が登校した時点で、発熱者、体調不良者の有無、誰に声をかける必要があるのかがわかります。個別に対応できるので、子どもたちのプライバシーも守られます。登校後すぐの活動がこの作業なので、PCの活用による身近さを感じられ、この利便性が自分たちの学校生活の中で、他に活用できるかを考えるきっかけにもなります。

は、アンケート調査などが始まり、全員が回答が終わると同時に集計が完了します。すでにリモートでの話し合いや、万が一臨時休校などがない状況に学校でできない状況になったとしても、各家庭にいながらにして授業を受けることもできます。ただ、これは、日常的なものではなく、そのような状況となった場合に行われることです。しかし、この使い方、子どもたちが日常の活動の中で活用できることはないか、考えるきっかけにはなりません。順調に進めば、今年度の桐陽祭での子どもたちのPCの使い方は、これまでとは違うものが出てくることを期待しています。また、PCのほんの一部分しか使っていない。これからの子どもたちの創造意欲をかき立てる取り組みを進めていきます。



は、アンケート調査などが始まり、全員が回答が終わると同時に集計が完了します。すでにリモートでの話し合いや、万が一臨時休校などがない状況に学校でできない状況になったとしても、各家庭にいながらにして授業を受けることもできます。ただ、これは、日常的なものではなく、そのような状況となった場合に行われることです。しかし、この使い方、子どもたちが日常の活動の中で活用できることはないか、考えるきっかけにはなりません。順調に進めば、今年度の桐陽祭での子どもたちのPCの使い方は、これまでとは違うものが出てくることを期待しています。また、PCのほんの一部分しか使っていない。これからの子どもたちの創造意欲をかき立てる取り組みを進めていきます。

地域を題材として地域で学ぶ 2年総合 三島町内90の事業所



毎年二年生は、秋に職業体験学習を行います。これまで、会津若松市や坂下町の事業所で二日間行ってきましたが、今年度は、三島町のことをもっと知りたいと、二日のうちの一日は町内の事業所で行うことを計画しています。その手始めに、町内の事業所を調べました。生徒十人で知っている範囲で出し合い、その後家庭の協力を得て洗い出したところ、なんと九十カ所もの事業所がありました。また、数えられていない事業所もあると思います。このうちのどこかでお世話になります。子どもたちの自立への出発地が三島町となります。

今月の1枚

空き瓶空き缶回収 4月24日(土)

保護者の皆様、サポート会の皆様、そして地域の皆様のご協力により、青空の下今年度第1回の空き瓶空き缶回収を行うことができました。収益金は**6万6千984円**です。子どもたちの活動費として活用させていただきます。ありがとうございました。

